

第111回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2018年11月12日(月) 14時～17日時

兼題「白鳥」

- 川井素山 ○遠嶺やいく夜星見る懸大根
河豚さしの皿の色繪や地酒汲む
白鳥の一羽に続く大羽音
狛犬の一枚くはふ冬紅葉
- 保井寶正 ○千里きて千の白鳥声そろふ
乾鮭の哀れ半身の軒の店
ハロウィーン終へて澁谷も冬に入る
ママトモや噂飛びかふ園小春
- 佐久間喬 ○抜け道の角を曲がれば金木犀
白鳥や空晴れ渡り唯白し
白鳥の鳴き交わしつつ降り立てる
ハロウィーン魔女と出くわす異界かな
- 丸山酔宵子 ○新米の湯気をおかずに箸すすむ
もう ^{いっぱい}一貝 シャブリ片手に牡蠣啜る
ハロウィーンの頃に惑ひし過ぎし恋
着水す白鳥泳ぎ水尾残す
- 菊地崇之 ○時雨忌や心は旅し意は虚ろ
白鳥や瓢湖集う人の群れ
酉の市クマデばかりか縄暖簾
冬に入り浸り居る我が家計
- 吉田啓悟 ○うそ寒や体温計を振り直す
老いらくの恋にも似たり帰り花
怒涛なり仙石原の花芒
オスプレイに立ち姿似る大白鳥
- 青木英林 ○小春日や碁盤を抱へ縁側へ
県境の山白く変へ冬来る
賑はひが景気占ふ酉の市
伝へ聞く姫の到来大白鳥

- 山本草風 ○小白鳥塑像になりて餌をまつ
疲れ果て不揃ひに脱ぐ妻の足袋
秋晴れに肌見せはしゃぐ乙女かな
陸奥の道蝦夷の涙蔦かずら
- 佐久間たか子 ○風にのる紙飛行機か朴落葉
髪置やカルピス御神酒いっき呑む
ひらりひら参道紅葉の美しき
白鳥を見にポッケにカイロ2つ3つ
- 渡辺鯨波 ○白鳥の軍団と会うラグビー部
磐梯山借景にしてオオハクチョウ
お揃いのセーターでゆく百円店
小春日のつまみ読みするデカメロン
- 原 晶如 ○白鳥のつぎつぎに着く足反らし
平成の四季は歪にしわぶけり
植木屋の剃刀が入り松小春
座布団に茶の花日和長屋門
- 後藤克彦 ○银杏ちり黄色の道や隙間なし
白鳥や声高らかに池占める
うろこ雲隙間広がり魚似る
落つる実や手のひら溢れ明日来たる
- 永井正孝 ○白鳥の声降る空に口をあけ
秋暑し硫黄香の中蟬の声
みずばな
水漬の我が鼻先の冷めたさや
紅葉狩木の間先の下界かな
- 澁谷瑠璃 ○裏の顔月になら倣ひて見せぬまじ
白鳥の羽根挟まりしブルースト
終電も通はぬ島に月の舟
いてつち
凍土の国香港は誰のもの
- 金森純女 ○うすぐらき厨の隅の海鼠かな
牡蠣すすするその唇は誰のもの
床の間に芒のありて湯のたぎり
白鳥の羽ばたき猛し吾子の泣く

次回「萩句会」

日時 2018年12月10日(月) 14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『数え日』一句

当季雑詠 三句